

その他の動力運搬機を起因物とするはさまれ巻き込まれの死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生日	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	1	0 ～ 1	自動車ドアの自動組立ラインのコンベア部に不具合が生じたので修繕のため、トラバーサーに腹這いになり下部コンベアに上半身をもぐり込ませて作業を行っていたところ、突然トラバーサーが上昇し上部コンベアのベースとの間に胸部を挟まれた。	11502	100 ～ 299
1999	1	21 ～ 22	自動立体倉庫内において、出庫転換機とスタッカークレーンの動作を制御する検知器が不具合であるとの連絡を受け、同検知器の動作確認を行っていたところ、出庫転換機が動き出し検知器が設置されている鉄骨と出庫転換機のフックのと間に挟まれた。	11001	300 ～
1999	3	8 ～ 9	炉内のコークス塊を押出機で押出して、炉の蓋をしたのち、蓋と炉の隙間に不燃材を差し込むガス止め作業をしていた作業者が次の作業を行う炉に移動中に、走行中の押出機とコークス炉歩道との間にはさまれた。	11001	100 ～ 299
1999	5	11 ～ 12	一人で自動研磨機を使用して研磨作業を行っていたが、昼休みになっても休憩室に来なかったので、同僚が探しに行ったところ、大理石が載せられた機械に挟まれていた。	10909	10～ 29
1999	5	8 ～ 9	林業運搬機械のエンジンルームのカバーを閉めようとしてしていたときに、横付けされた別の林業運搬機械(車両系建設機械のアタッチメントを変えたもの)が旋回し、カウンターウエイト部と当該機械との間に挟まれた。	60201	1～9
1999	8	14 ～ 15	1500tのトランスファープレスで自動車部品のプレス作業中に、金型にセットされる材料が2枚重なり、プレスが停止したので、これを取り除くためプレスと材料の搬送コンベアとの間に入り作業中、作業の指示を出した者が十分な安全確認をせずプレスを再起動させたため、材料を送る起動したフィーダーの端部と搬送コンベアとの間に胸部を挟まれた。	11502	30～ 49

1999	8	9 ～ 10	ごみ収集車で回収した古紙を降ろすためテールゲートを上げようとしたが上がらないため、同僚とともにごみ収集車の投入口より古紙を取り出していたときに、突然、回転板が動き出して、回転板とホッパーに挟まれた。	80109	1～9
1999	8	9 ～ 10	川に設置されている除じん機(動力を用いて草等を運び上げる機械)で、草の処理を行っていて機械のツメに巻き込まれた。	30107	1～9
1999	7	15 ～ 16	ごみ収集車(パッカー車)の車両点検で、荷箱とテールゲートの接合部の点検をするためテールゲートを上昇させているときに、テールゲートが急に落下し、荷箱とテールゲートとの間に頭部を挟まれた。	160101	1000 ～ 9999
1999	9	13 ～ 14	ワンシャーラインの(コイル状のステンレスやチタンを切断し箱詰する機械)に空木箱をセットする作業中に機械内に上半身を入れたため、上昇したリフター上の空木箱とパイラー機のサイドガイド部に腰部を挟まれた。	11001	300 ～
1999	10	10 ～ 11	工場内においてフローパレタイザー(加工されたダンボールをフォークリフト専用パレットの上に自動で一定の高さに積み上げ、両端を揃えて搬送する装置)の運転作業中に、積み上げたダンボールがパレットから崩れ落ちたのでそれを取り除こうと中に立ち入ったときに、下降してきた昇降枠とローラー台との間にはさまれた。	10602	10～ 29
1999	12	14 ～ 15	エンジンの試運転に使用するワイヤーハーネスをパレット治具から取りはずすのを忘れたので、ラインを流れているパレット治具からワイヤーハーネスを取りはずそうとしていたときに、ラインの端と立型自動搬送装置のフレームとの間に顔面を挟まれたもの。	11301	300 ～ 499
2000	7	21 ～ 22	セラミック工場焼成ラインの台車と台車の間に取り付けているスペーサー(長さ約25cm、直径24mmの棒)の取り外し作業中に台車に挟まれた。	10904	30～ 49
2000	10	8 ～ 9	解体した建築廃材の焼却場において、ホイール式グラップルで廃材を焼却炉に運搬していたときに、廃材の分別作業をしていた者をグラップルの右後輪でひいた。	150102	1～9

2000	5	8 ～ 9	電子ワイヤー巻き取り機のボビン搬送リフターでトラブルが発生したため、ピットの中に入り修繕作業を行っていたときにボビン搬送リフターが突然落下し、搬送リフターと床との間に挟まれた。	11109	300 ～
2000	6	9 ～ 10	廃棄物を焼却工場に搬入して車両を斜面に駐車し、用事で車両をはなれていたときに車両が動き出したので、車両を制止しようとして車両と廃棄物置場との間に頭をはさまれた。	150102	30～ 49
2000	5	13 ～ 14	墓石の解体作業で、トラックから構内運搬車に荷物の積み込み、構内運搬車を運転するためトラックの荷台と構内運搬車の隙間約50cmの間に入りエンジンを掛けたところ、構内運搬車の走行クラッチが「後進」に入っていたために後進し、トラックの荷台と構内運搬車との間に挟まれた。	30209	1～9
2000	4	6 ～ 7	コイル数量の確認のため、圧延工場へ入ってトランスファー(コイル自動搬送装置)の稼働部に胸部を挟まれた。	11101	100 ～ 299
2000	3	10 ～ 11	ホテルの地下2階立体駐車場において、水漏れ点検のため移動中に後方から移動してきた台車(車輛を移動する台)とコンクリートの角との間にはさまれた。	150101	100 ～ 299
2000	2	8 ～ 9	鶏舎横の広場において高さ3cmのトラックの荷台からラックラクター(鶏籠を積む機械)を降ろす作業中に、ラックラクターのキャタピラの駆動回転部分に頭部を巻き込まれた。	40301	50～ 99
2001	2	8 ～ 9	自動メッキラインのメッキ槽の液量確認のためメッキ槽(高さ115cm)の横に立ち中をのぞきこんでいたところ、プログラムに従って走行してきたメッキ材料運搬用機械のマストとメッキ槽にかけ渡してあった枠との間(すき間11cm)に胸部を挟まれた。	11204	100 ～ 299
2001	2	10 ～ 11	作業員3人が、垂直昇降型の高所作業車に付着したモルタルを取るため作業床を高さ約2mに上げて作業していたところ、作業床が降下してきてブームと車体との間にはさまれた。	30106	10～ 29
		16	ホイール式トラクターショベルで4tトラックのけん引中にワイヤロープが切		10～

2001	4	～ 17	断したので交換しているときに、トラクターショベルが徐々に後退してきたため押していたが下敷きになった。	150102	29
2001	4	7 ～ 8	牛舎内にある配餌機(移動しながら餌を配給する自動機械)に挟まれた。	70101	1～9
2001	4	16 ～ 17	ダンボールを回収するため塵芥車を駐車場に止め、ダンボール用倉庫へ行って鍵の開閉状況を確認していたところ、ダンボール用倉庫の方向に動き出した塵芥車と壁との間に挟まれた。	150103	1～9
2001	5	16 ～ 17	アルミ材用皮膜ラインにおいて、自動搬送装置の昇降ユニット(縦吊り用)を点検中、ユニットのローラーチェーンに巻き込まれた。	11203	300 ～ 499
2001	5	11 ～ 12	製函工場において、昼食時に交替する作業者が居ないため工場内を探したところ、工場2階の垂直搬送機の昇降路内で頭部を負傷し倒れているのを発見した。	10106	10～ 29
2001	7	9 ～ 10	リフターケーブルの更新作業中、リフターが突然上昇し、リフター搬器とタンク背面部材との間に身体をはさまれた。	30301	1～9
2001	8	9 ～ 10	自動砂型成形機に付随した鑄造ラインにおいて、砂型を載せた台車がレールから脱輪したため、ラインを停止させ、鑄込み後の砂型からテーパーケース(砂型の周りにはめ込まれた枠)を自動で外し、そのときに外れ落ちた鑄込み口を取り除くため砂型上に身体を乗り出したところ、突然ラインが動き出し挟まれた。	11002	30～ 49
2001	9	13 ～ 14	収穫されたナスを選別するため建屋の1階でプラスチック製のケースに入れ荷揚げ装置により2階に上げる作業を行っていたところ、ケースがひっくりかえってナスがこぼれ落ちたので落ちたナスを拾おうと荷上げ装置の中に入って荷上げ装置のバーと鉄骨との間に挟まれた。	170209	30～ 49
		9	垂直高速搬送機搬送された荷をフォークリフトで各階に搬入する作業中、4		

2001	9	～ 10	階に居た者が、3階に居た者に搬送機のフレームの間から声をかけたときに、5階部分から降りてきた搬送機のカウンターウエイトとフレームとの間に挟まれた。	80401	10～ 29
2001	10	17 ～ 18	工場のダンボール搬送機械にセットしたダンボールの相性を監視するため出張作業中、搬送機械から落ちかけたダンボールがあったので機械が動いている状況のままこれを直そうとして安全柵の隙間(29cm×19cm)から頭を入れたところ、動いている機械と安全柵との間に頭部を挟まれた。	10602	100 ～ 299
2001	10	13 ～ 14	共同住宅新築工事において、場内道路の敷鉄板を溶接作業中にコンクリート打設工事のため後進してきた生コン車にひかれた。	30201	10～ 29
2001	12	9 ～ 10	立体駐車場の建築現場で防護ネットを取り外す作業を行っていたところ、別作業で稼働中であった車運搬用搬送機のカウンターウエイトと立体駐車場の鉄骨との間にはさまれた。	30201	10～ 29
2001	7	0 ～ 1	墓石の設置を行うため3つの墓石(総質量280kg)を手押しクローラ運搬車に載せて傾斜角度27度の坂道を運搬していたところ、運搬車がやや左寄りに走行していたので体勢をたて直すため一旦運搬車を停車させ、再度走行させようとしたときに運搬車が突然後退したため運搬車に挟まれた。	10909	30～ 49
2001	12	10 ～ 11	包装紙等を製造・加工する工場において、地下1階資材倉庫から地上1階加工場までロール紙等の資材を搬送する自動搬送機のうち垂直搬送機部分の昇降路内で清掃作業を行っていたときに、搬器が降下してきて挟まれた。	10602	50～ 99
2002	4	15 ～ 16	立体駐車場(地下、車2台を上下に収納する構造)の点検作業中に、駆動チェーンのピンの1つが外れているのを発見したので車2台を収納した状態の搬器を最上方に揚げ隣の搬器を下げて、その床上でハンマー等を用いて駆動チェーンの応急措置を行っていたところ、チェーンが切れて搬器が落下し搬器とピットとの間に挟まれた。	170209	1～9
2002	4	16 ～	表面加工を行う部品をバケットに入れ溶液槽に自動搬送(移動、沈浸)していくラインの内部点検のため、液を抜いた漕の内部に入ったがラインが止まっていなかったためにキャリアーに当たって隣の槽まで身体を引きずられ、	11209	10～ 29

		17	隣の槽内のバケット上部の取手部分（バレル）との間に挟まれた。		
2002	5	14 ～ 15	サーマルリサイクル施設の感染性廃棄物貯留場内で、感染性廃棄物供給装置の運転を指示されて1人で4階の中央操作室を出て1階の操作盤に行き起動させたが約10秒後に異常が発生し、その後2～3分経過してもリセットされない ので、同僚が確認に行ったところ1階NO2感染性廃棄物コンベア横で倒れていた。	150102	30～ 49
2002	7	17 ～ 18	ビニールハウス内でたい肥散布機に乗ってたい肥の散布作業中、ビニールハウスの鉄製梁（高さ約1.4m）と散布機の背もたれとの間に頭部を挟まれた。	170209	10～ 29
2002	10	11 ～ 12	飲料缶等の製造ラインを停止した月初めのメンテナンス作業で、テーブル面で作業を行うため上昇中のリフター（113cmを約25秒で上昇）に乗ろうとしてアングルに胸部を挟まれた。	11203	300 ～ 499
2003	2	11 ～ 12	ショベルローダーで回収された段ボールをコンベヤに投入する作業中に、エンジンを切らずギアをバックに入れた状態でショベルローダー運転席から降りて、約9m離れた建屋の柱付近にいたときに、後進してきたショベルローダーと柱との間にはさまれた。	80109	1～9
2003	3	18 ～ 19	荷物引き取りのため、プラットホームにトラックを止めて荷台へ積み込み作業を行っていたときに、ホームに設置されているリフト（昇降機・揚程1m）の下に荷物が落下したので拾うためリフトの下に入ったときに、下降してきた搬器に頭部をはさまれた。	40301	30～ 49
2003	3	9 ～ 10	高さ1.2mのプラットホームから空ダンボールをゴミ収集車のホッパーに入っていて、ゴミ収集車のテールゲートから誤ってホッパー内に転落し、回転板に巻込まれた。	80109	10～ 29
2003	3	13 ～ 14	飲料水製造ラインのリフター（パレットに乗せたペットボトルを上昇させる装置）の高さの調整作業中に、リミットスイッチとの隙間を確認しようとしてリフター内に上半身を乗り出していたときに、動き出したリフターに頭部をはさまれた。	10106	10～ 29

2003	3	14 ～ 15	工事現場において、同僚とともに法面（のりめん）の養生をするため農業用運搬機に土のうを積載し、法面（のりめん）上部に運搬しようとしたときに、農業用運搬機が下方向にずり落ちてきて同僚が運搬機にひかれた。	30106	10～ 29
2003	4	11 ～ 12	道路拡張に伴う電柱の新設・撤去工事において、既設電柱から取り外された電線を巻取り機で回収していたところ、電線が巻取り機の回転シャフトに絡み付いたままであったため、緩んだ電線に右足が絡んで巻取機に巻きこまれて宙に浮くような状態となり、頭部を地面に叩き付けられた。	30301	10～ 29
2003	4	10 ～ 11	工場棟内で、皮膜槽の清掃および再塗装作業のため皮膜槽の側面に設けてある作業構台の端と皮膜ライン1号台車の移動レールの上に立ち上がったときに、皮膜ラインの試験運転のため自動運転していた台車と作業構台との間に身体をはさまれた。	11209	300 ～ 499
2003	5	16 ～ 17	トラクターで畑の耕起作業を行っていた者から同僚の携帯電話にうめき声で電話があったので現場に駆けつけたところ、トラクターの後部に取り付けられている耕起用アタッチメント（機体質量約250kg）の下敷きになっていた。	60101	30～ 49
2003	7	16 ～ 17	工場の脱型場において、以前から補修が必要であった脱型台車の駆動用電動機を取替えるため、隣に設置してある緩め機用台車の軌道内（深さ40cm）で作業を行っていたときに、台車が定位置に戻っていないことを発見したクレーン運転士が操作盤を操作して台車を走行させたため台車にひかれた。	10901	50～ 99
2003	8	19 ～ 20	切断したアルミを載せるスパーサの供給装置（上下左右に移動し、一次コンベヤに乗せる装置）で、一次コンベヤに乗せられていたスパーサが二次コンベヤに至る前で停止したので、自動運転の状態ですパーサ供給装置内に入りスパーサの位置を修正していたところ、スパーサの有無を感知する近接スイッチ等が作動したため、供給装置が下降し一次コンベヤとの間にはさまれた。	11209	300 ～
2003	9	2 ～ 3	浴室部材を成形している2500tプレス工程において、離型剤を塗布してバリ取りをしているときに材料投入機が作動し、成形機金型上の製品のところに降りていた離型移載機と材料投入機との間にはさまれた。	10805	100 ～ 299
			枯木の伐木・撤去作業で、切った丸太2本（長さ73.5cm、直径19.5cm、長さ		

2003	9	9 ～ 10	85cm、直径21.5cm) をゴミ収集車後部の投入口に投入したところ、丸太が詰まったのでテールゲートを開けてテールゲートと荷箱の間に立ってチェンソーで丸太を切断しようとしたときに、テールゲートが閉まり腰部をはさまれた。	60101	1～9
2003	9	16 ～ 17	U字溝等のコンクリート製品の製造ラインにおいて、型枠を乗せたトラバサの方向を90度変えるための自動搬送装置の型枠の側面が開いたのを直そうとしたときに、搬送装置の固定フレームと移動するフレームとの間にはさまれた。	10909	1～9
2003	10	6 ～ 7	陽極酸化複合皮膜ラインにおいて、当日予定の循環流量計設置工事個所の確認および下準備を行っていたときに、自動運転になっていた搬送台車と槽の側面についている遅降装置との間に頭をはさまれた。	11109	100 ～ 299
2003	10	17 ～ 18	空港において、航空機の貨物室にハイリフトローダーと呼ばれるワンマンコントロールのコンテナ運搬車で荷を積み込んでいるときに、コンテナとコンテナとの間にはさまれた。	40103	100 ～ 299
2004	2	9 ～ 10	リフトの滑車塔に登り除雪作業を行っていたところ、滑車に巻き込まれた。	170209	100 ～ 299
2004	10	14 ～ 15	馬鈴薯の収穫に使用している農業用機械（ハーベスター）の清掃を行うため、高圧洗浄機を用いて作業していたところ、トラクターとハーベスターを連結しているプロペラシャフトに巻き込まれた。	60101	1～9
2004	5	15 ～ 16	鋼板のコイルを移動する台車のセンサーを点検する作業中に、鋼板の巻取り装置が動き出し、当該巻取り装置とコイルを置く架台の部分に挟まれた。	11409	50～ 99
2004	3	2 ～ 3	たばこのフィルター自動供給システムにおいて、自動搬送装置のローラーコンベヤ上で5段積み段ボール箱が所定位置からずれて停止したため、昇降機（搬送装置の一部）の昇降路開口部に体を入れ上記ダンボール箱を押し込んだところ、昇降機の搬器が上昇し、搬器と昇降路横枠の間に挟まれた。	11704	100 ～ 299



2004	4	23 ～ 24	プレス機械に接続された部品供給用のエレベーターの昇降路内において残部品の確認作業を行っていたが、下降してきたエレベーターの搬器に気付かず、搬器と部品供給棚（プレス機械に供給する部品をストックしておく設備）との間に挟まれた。	11301	300 ～
2004	4	14 ～ 15	鶏糞肥料（15kg袋入り）を運搬するベルトコンベアのベルトに緩みが発生したため、針金で応急処置作業中、パレタイザーのアームに挟まれた。	70101	10～ 29
2004	12	23 ～ 24	エンジン・リヤサスペンション組立ラインにある自動垂直搬送機の故障を点検するため、昇降路にある安全柵を外し、そこから昇降路内に立ち入って作業を行っていたところ、搬送機が急に下降し始め、搬送機の上部フレームと安全柵を外した開口部分の下部に挟まれた。	11502	1000 ～ 9999
2004	2	8 ～ 9	作業開始点検後、ハーベスタを作業場まで移動する際に、ハーベスタ後部の原料袋を下げる荷台アームと本体に挟まれた。	60101	30～ 49
2005	3	14 ～ 15	クリーニング工場内で自動洗濯工程の一部である脱水機の異常を知らせるブザーが鳴ったため、被災者は洗濯物を取りだそうと垂直搬送機の中に入ったところ、突然動き出した垂直搬送機とフェンスとの間に挟まれた。	11703	50～ 99
2005	9	10 ～ 11	収集したごみをごみ収集車からごみ処分場内に下ろす作業を行っていたところ、同車のテールゲートが激突した。	150103	10～ 29
2005	1	14 ～ 15	玉切材集積場所付近でチェーンソーの燃料を入れていたところ、後退してきたグラップルのクローラ部分でひかれた。	60201	10～ 29
2005	1	1 ～ 2	製品を研磨する自動エアショットブラスト装置における製品自動搬送装置の台車と台車との間に挟まれた。	11502	300 ～
		10			100

2005	8	～ 11	搬送装置により運ばれてきた部材と加工室の天井との間に挟まれた。	11509	～ 299
2005	5	～ 16	15 ロールアーム上部組立工程作業において、中折防止スプリングを取り付けよ うと他の作業者がアーム下部に上ったところ、アームが曲がって降下し、被 16 災者が挟まれた。	11502	10～ 29
2005	9	～ 10	9 10 ゴミ収集車のゴミを押し込むカッターローラーを回転させながら水洗いをして いたところ、カッターローラーに挟まれた。	150109	10～ 29
2005	3	～ 1	0 1 パッカー車により家庭ごみの収集作業を行っていたところ、パッカー車のボ ディ内部に巻き込まれた。	150103	1～9
2005	12	～ 24	23 24 放熱板に粉状のフラックスを塗布する機械を操作中、可動式ローラーコンベ ヤーの基部に挟まれた。	11502	100 ～ 299
2005	10	～ 16	15 16 ゴミ処理施設において、ごみ収集車のテールゲートを開けゴミをピットに投 入する作業で、ゴミの投入補助をしていた被災者が収集車のテールゲートに 挟まれた。	150102	10～ 29
2005	7	～ 10	9 10 2人で機械式ごみ収集車によりペットボトルの回収作業を行っていたとこ ろ、機械に巻き込まれた。	150109	50～ 99
2005	5	～ 11	10 11 積載荷重0.5トンのクローラ式運搬車に石材1トンを積み込み坂道を後退 中、運搬機の制御が利かなくなり、運搬車と坂道脇の擁壁との間に挟まれ た。	30199	1～9
2005	6	～ 9	8 9 クローラ式不整地運搬車を勾配が14度の坂道で停止したところ突然、動き出 し、付近にいた被災者がが激突した。	30108	1～9
		14	メッキラインに部品を投入するため、運搬装置に被メッキ物を入れ、メッキ		50～

2005	12	～	ラインのホッパーに専用の運搬装置のバケットから材料を投入しようとした	11209	
	15		ところ、運搬装置のバケットとメッキラインのホッパーとの間に挟まれた。		99
2006	2	5 ～ 6	工場の「250tロボットプレスライン」において、プレスで加工された半製品が流れて来ず、不審に思った作業員が、設備を点検していたとき、シートフィーダ（プレスへ材料を供給する自動搬送システム）内で上半身が挟まれている被災者を発見した。	11502	～ 299
2006	3	14 ～ 15	自動車運搬船からトレーラーのシャーシ部をおろす作業中、被災者が船の床にベルト・架台で固定されているシャーシを解除する作業をしていたとき、トレーラーヘッドの運転手がヘッドをバックさせたため、被災者がはさまれた。	50202	10～ 29
2006	3	17 ～ 18	錫メッキ工場CAL（キャル）炉の重点工事（定期修理）において、2名でCAL炉に付着したスケール等の除去をボトムカバー台車に上がって行い、作業が終了したので、他の1名が別の場所へ移動した後、被災者がボトムカバー台車を移動させようとしたところ、ボトムカバー台車とCAL炉の支柱にはさまれた。	11001	～ 9999
2006	3	17 ～ 18	リサイクルセンターへ産廃を運び込む作業中、脱着ボディーシステム車のエンジン動力伝達部分に土のうが絡まっていたため、車体に乗り土のうの袋を取り除こうとしたところ、あげていたコンテナの荷台が落下し、荷台と車体の間に挟まれた。	150102	1～9
2006	4	16 ～ 17	収集したダンボールを機械式ごみ収集車から排出する作業を運転手と被災者で行なっていたとき、被災者が機械式ごみ収集車の荷台内に残ったダンボールをかきだそうとして機械式ごみ収集車の荷台とテールゲートの間に入ったことに運転手が気付かず、機械式ごみ収集車のテールゲートを閉めてしまい、被災した。	150103	30～ 49
2006	5	10 ～ 11	被災者は敷地内にある車庫内から構内運搬車（立った姿勢で運転）を前進させた際、車庫出入口（高さ1.8M）にぶつかり、構内運搬車荷台のガードと車庫のシャッターボックスとの間に挟まれた。	11209	10～ 29
			被災者は、町道脇でゴムクローラーキャリアダンプ（4t車）の荷台部分と		

2006	6	8 ～ 9	クローラーの間に正座するような格好で前のめりになって挟まれているのを、木材を積み込みに来た運送業者に発見された。被災場所は山林内から切り出した木材を同ダンプで運搬してきて一旦仮置する場所であり、同ダンプの荷台の上げ下げの調子が悪いことから、被災者は一人で修理を行っていた。	60201	1～9
2006	10	15 ～ 16	スーパーにおいて、ダンボールの収集作業中、ダンボールを収集車に積み込んでいたところ収集車の圧縮板にはさまれた。	80109	1～9
2006	12	14 ～ 15	高速自動車道の中央分離帯の樹木剪定作業等が上り線・下り線の追越車線を工事規制して行われた。被災者が上り線の追越車線において、当該作業後に飛散した枯葉等をブローワーにより中央分離帯側へ寄せる作業をしていたとき、剪定した枝葉等を回収し搬出するため上り線追越車線を後進してきたパッカー車に轢かれた。	30201	1～9
2007	2	9 ～ 10	被災者はポリタンクで麓から水を汲みに行くために、一人で単軌条運搬機に乗り移動し始めた。その後、同僚が単軌条運搬機のエンジン部分と軌条の架台にはさまれている被災者を発見した。	30199	1～9
2007	11	7 ～ 8	空港建設現場において、朝の始業点検で掘削エリアで使用するドラグ・ショベルのエンジンオイルが不足していたため、現場管理者である被災者が、ピックアップ車でオイルを取りに行く途中、掘削エリアに向かって移動していた90t級ダンプに、車両ごとひかれた。ダンプ運転手は、被災者車両に気付かないまま乗り上げた。	30199	30～ 49
2007	2	11 ～ 12	アルミホイール工場内鑄造部門において、溶解炉を担当していた作業者が、停止しているスクラップホイール搬入用リターンバケットのホッパー底部開閉扉にはさまれているところを発見された。	11109	10～ 29
2008	4	14 ～ 15	被災者は同僚1名と共に、タンク車で回収した汚泥を産業廃棄物処理場で排出した後、タンク内の洗浄作業を行った。洗浄作業終了後、被災者の合図で同僚がタンクを降下させハッチを閉じたが、被災者の姿が見えないことに気付きハッチを確認したところ、被災者がタンクとハッチの間にはさまれてい	150102	1～9

			た。		
2008	4	10 ～ 11	同僚作業者と3名により間伐作業を行っていた。被災作業者は、運搬車を使用して玉切りしたホダ木の運搬作業中、運搬車と立木との間にはさまれた。	60201	10～ 29
2008	8	8 ～ 9	僅かな勾配となっていたゴミ収集場所で作業していたところゴミ収集車が下がりはじめた。被災者が手で車両を押さえようとしたが転倒して車両下に入り、ひかれた。	150103	10～ 29
2008	5	11 ～ 12	トラックスケール場において、被災者がスクラップを積載してきた2tトラックの荷台のシートの取外し作業を行っていた時、屋内から屋外へ後進してきたドラグ・ショベルのクローラでひかれて死亡した。	80109	1～9
2008	3	9 ～ 10	運転手1名と作業員2名で、道路上に点在する集積場のゴミをゴミ収集車で収集する作業の際、移動のために低速で前進するゴミ収集車後部の投入口の荷台部に被災者が乗っていたところ、足が滑ったため回転板に巻き込まれ死亡した。	150103	50～ 99
2009	11	13 ～ 14	被災当日、農業用トラクターの後部に収穫用コンテナを乗せるための荷台を連結し、収穫した長いものを荷台上のコンテナに入れる作業を行っていた。当該コンテナに長いものを入れる作業は農業用トラクターを前進させながら作業を行っており、被災者は前進していた荷台後部左側の車輪に巻き込まれた。	60101	1～9
2009	9	15 ～ 16	生コン供給トロッコに取り付けられているバケットから、その下方にある投入バケットに生コンを自動投入する作業において、当該投入バケットの縁に足を掛け、その上方にある生コン供給トロッコのバケットに付着している生コンをスコップでかき出していたところ、所定の位置に戻ろうと回転した当該供給トロッコのバケットにはさまれた。	10909	30～ 49
2009	11	9 ～ 10	二人の作業員が、ゴミ収集車で家庭用のゴミを収集していた。69箇所目のゴミ置き場において同僚が置き場からゴミを取り出し、それを被災者が収集車に投げ入れていた。同僚がこぼれたゴミをまとめていたところ、突然、「ガタン」と音がして振り向くと、収集車の回転板が被災者をはさみこんでい	150109	10～ 29

			た。すぐに緊急停止スイッチを押して、被災者を救出して救急車を呼んだが、同日に死亡した。		
2009	1	19 ～ 20	アルミサッシの枠を製造するためのダイスとボルスターを自動搬送する設備において、被災者がボルスターと搬送機のクランプの間にはさまれた。	11209	300 ～ 499
2009	6	23 ～ 24	アルミニウムを溶解する設備において、アルミを投入（自動搬送）するバケットの底が閉まらなくなったため、溶解設備の脇にある点検場所においてバケットの底を閉めようとバケットの中に入って補修作業を行っていたところ、突然バケットの底が閉まりはさまれた。	11109	100 ～ 299
2009	8	4 ～ 5	本社工場内の炊飯室において、炊飯担当のパート被災者が、炊飯室に設置された食缶反転機と称されるリフトにおいて、使い捨て容器にしゃもじで米飯を盛るため、炊飯釜の蓋を取ろうとしていたところ、リフトのバーと炊飯釜の間にはさまれた。	10109	100 ～ 299
2009	5	2 ～ 3	鉄筋の原料となる鉄屑を入れるバスケットを溶鉱炉まで運ぶための台車が、電気ケーブルの断線により突然停止したため、その復旧作業に普段は立ち入ることのないピットに入り、ケーブルの交換を行っていた。交換作業後、被災者は作動確認のためピット内に残ったまま同僚に電源投入を頼み、電源が投入された瞬間に台車が動き、壁と台車にはさまれた。	11001	100 ～ 299
2009	1	18 ～ 19	自動立体駐車場において、自動車運搬用の移動台車（搬器）の櫛状の棒（自動車の後輪が載る部分）と自動車を駐車させる駐車棚（櫛状の棒架台）との間にはさまれた。	80409	10～ 29
2009	6	12 ～ 13	客先の地上5階建て物流倉庫において、垂直搬送機（運搬機）の点検・整備作業中、垂直搬送部1階ピットにおいて、被災者が降下してきたカウンターウエイトにはさまれた。なお、カウンターウエイトは同僚作業者が5階の操作盤の搬器スイッチを起動させたため作動した。被災者の予定作業は地上部の垂直搬送部外側の水平搬送用ローラーコンベヤーの点検・清掃を行うものであった。	11702	1～9
			木材を集積するための前取機と呼ぶ機械設備の構成部分に木材を載せて所定		

2010	1	8 ～ 9	の集積位置に移動し、被災者は木材を集積させるための部位であるフォーク部の稼働スイッチを入れた後に、上半身を前取機内部に入れたため、フォーク部の稼働部と前取機の外側フレームとの間に胸部が挟まれ窒息死したものの。	10401	1～9
2010	1	8 ～ 9	アスファルト合材を製造するプラントにおいて、不具合が発生したため、被災者がその状況確認のために1人でプラント内に入り、運転を停止せずに作業をしていたところ、アスファルトを運搬するトロリーとプラントの支柱に挟まれたもの。	10804	10～ 29
2010	4	9 ～ 10	コア・サービス（2次下請）の作業員が、「分級機」（スクリーコンベヤー）の修理（取替）作業を運転しながら行っていたところ、当該機械に足などを巻き込まれ死亡した。事故当日は、発注者の作業員1名、1次下請の作業員1名、2次下請の作業員2名が来ていた。	11702	1～9
2010	4	16 ～ 17	自動運転中のスキップホイストのピット床面とバケット底部の間に挟まっている被災者を同僚が発見したもの。スキップホイストは、トンネル状の傾斜したダクト内をバケットが昇降し、貯蔵タンクへ石灰を運搬する設備である。被災者は、バケット内に立ち入って付着した石灰を除去する作業を行っていた時、バケットが上昇を開始したので待避しようとしたが、ダクトとの間に挟まれてピット内に落下し、その後下降してきたバケットの下敷きになったと推定される。	10909	1～9
2010	5	17 ～ 18	産業廃棄物処理施設内道路清掃のための散水車に施設内調整池において給水作業中、散水車が後退しはじめ、給水作業を行っていた被災者が散水車と擁壁間に挟まれた。なお、当該作業は1人作業であったため、災害発生状況の詳細は不明。作業場所は調整池への取付け道路でスロープ（約8度）になっており、車止めの設置等散水車の逸走防止措置を講じていなかった。	150102	1～9
2010	5	9 ～	パレット積みした発酵前の乳製品を発酵室のラックに移動させる自動ラインにおいて、定期的な保守作業を行っていた被災者が、当該ラインに設置された油圧式テーブルリフター（パンタグラフ式の荷上げ装置）の内部で、下降した荷台にはさまれた状態で発見され、医療機関に搬送されたが死亡した。	10101	100 ～

		10	荷台の下降を防止するためのストッパーは使用されておらず、被災者がテーブルリフターの内部で清掃作業を行っていたとき、何らかの原因によりテーブルリフターの荷台が下降し、はさまれたものとみられる。		299
2010	7	15 ～ 16	コンベアーと一体に組み込まれ、品物を自動で2階に運搬する昇降設備（リフター）について改造工事をしていた。被災者が中に入ってボルトを6つ締める作業をしていたところ、突然リフターが上昇し、リフター床部分と外枠部分に上半身を挟まれた。設備内部に設置されているセンサーが被災者を感知し、品物が入ったと機械が判断し自動で動いたと思われる。	30302	1～9
2010	10	11 ～ 12	指導員補助である被災者が、業務としてワゴン車で協力事業場より新聞紙等の古紙を回収し、古紙の引き取りを行っている業者に赴いて古紙の積み下ろし作業を行っていたところ、当該古紙を処理するためバックしてきた業者の労働者運転のショベルローダー（最大積載荷重1.0t）に太もも付近をひかれた。病院に搬送されたものの死亡した。ショベルローダー運転者の後方確認が不十分であったとみられる。	130201	30～ 49
2010	11	23 ～ 24	被災者は、製品を2段積みにするための搬送用機械の駆動モーターの車軸部分を直すために、1人で搬器の上に入り作業を行っていた。その後、搬器とフレームの間にはさまれた状態で発見されたものである。被災者が、故障箇所を直すために駆動チェーンを切断したことにより、駆動モーターの制動機構により停止していたカウンターウェイトが降下し、搬器が上昇したために挟まれたものとみられる。	10601	50～ 99
2010	11	12 ～ 13	労働者が製品が入庫されずたくさん溜まっていることを不審に思い、コントロールルームのパソコンを確認したところ、40分前に製品の供給が停止されていた。担当であった被災者に確認しようとしたが見当たらないため、自動倉庫内の停止されていたレーンを探したところ、自動倉庫のラックの梁とパレット自動搬送装置に首の下付近を挟まれている被災者を発見したものの。製品入庫時に異常があり搬送装置を手動に切り替え修理しようとしたところ、倉庫内は暗く懐中電灯も使用していないことから操作を誤ったとみられる。	10109	10～ 29



2011	6	10 ～ 11	墓地公園の墓石の設置工事において、ドラグ・ショベルで掘削した土をバケットに入れ、ハンドガイド式の運搬車で墓地公園に停めたトラッククレーンまで運んでいたところ、坂道を後退で進んでいた時に、運搬車とトラッククレーンの間に体を挟まれたもの。	10909	1～9
2011	1	10 ～ 11	光ファイバーにかかる電柱の設備工事のため、被災者は労働者A、Bと共に、傾斜5～6度の道路脇に高所作業車を止め、車止めをタイヤ4つ全てに置き、アウトリガーを張り出し、作業を開始しようとしていたところ、高所作業車が雪で滑りだしたため、被災者と労働者Aが2人で高所作業車を人力で止めようとしたところ、被災者が雪で滑って高所作業車の下面と地面の間に挟まれ、頭部陥没のため死亡したもの。	30301	1～9
2011	3	15 ～ 16	自動包装機を運転し、板紙を包装するための給紙作業を行っていた被災者が、木製パレットを排出するためのテーブルリフターのテーブル上に上半身を入れていたところ、同テーブルが上昇し、同テーブルとテーブルリフターの鋼製枠との間に挟まれたもの。病院搬送後治療を受けるも、3月8日15時40分死亡が確認された。	10601	10～ 29
2011	2	13 ～ 14	メッキ製品製造ラインにおいて、メッキ製品の入ったバケットを運ぶ装置が突然停止したため、これを確認するために被災者がライン内に入ったところ、同装置が突然動き出したため、同装置が運んでいたバケットとメッキ製品を乾燥させる槽との間に被災者が挟まれたもの。	11202	10～ 29
2011	4	17 ～ 18	被災者は、重量4.3t、幅1.78m、直径1.9mのロール紙を巻取り機から機械操作で台車の上に設置、垂直に降ろしてから、水平移動させたのち当該ロール紙の品質検査を行う予定であったが、台車リフターが降下した際に当該台車リフターの底部と台車基底部の間に胸を挟まれ、事故発生の2時間後窒息により死亡したもの。	10601	300 ～
2012	8	13 ～ 14	コンテナ船からコンテナの荷卸し作業のため、別事業場の労働者が運転する「リーチスタッカー」と呼ばれるコンテナ積卸専用機械が船とコンテナ置き場との間を往復していた。被災者は、コンテナの検数業務後に詰所へ行くため構内を歩行していたところ、コンテナを持ち上げ後退して来た同機械の右	170209	1～9

			後輪に腹部を轢かれ即死した。		
2012	1	16 ～ 17	<p>停電により停止した機械プレス（自動プレス・フリクションクラッチ）の復旧・点検作業において、異音の発生場所を確認するため、プレスに付属する加工部品搬出用ベルトコンベアーに被災者が一人で上がり、部下にプレスを寸動で稼働させたところ、プレスに同期して作動するフィードキャリア（加工部品搬出装置）のフレーム部とプレスのフレーム部に頭部を挟まれた。</p>	11502	100 ～ 299
2012	1	10 ～ 11	<p>建材の成型を行う工場内で、当該成型作業に従事していた被災者は、モルタルカッターで所定の寸法に切断された際に発生する屑を吸着させダンパーまで移動する機械（吸引マット）と鉄柱との間に頭部を挟まれた。</p>	10901	100 ～ 299
2012	8	9 ～ 10	<p>被災者は上から降りてきた垂直搬送機（搬器に袋を吊り、洗濯物を1Fから3Fへ上げる）搬器フレームとベルトコンベアー端部のすき間で、ベルトコンベアーに顔をのせて吊られた状態で首下を挟まれた状態で発見された。</p>	11703	50～ 99
2012	12	13 ～ 14	<p>合板分配用テーブルリフター（高さ180センチ）で油漏れがあったので、被災者は同僚と2人で出張修理に出向いた。テーブルを上げ落下防止の角材を設置し、油を抜き、油圧シリンダーのパッキンを取り換えた後、起動確認しようとしたところテーブル上限リミッターが働いていて動かなかった。そのため、角材をはずしてテーブルを自重で下げようとした。バールを使用し、被災者が角材を取り除いたところ、テーブルが下降し、下敷きになった。</p>	11301	1～9
2012	4	15 ～ 16	<p>被災者は荷役機械である連続式アンローダー（6CUL）のテーブルフィーダー内部で主スクレーパーのライナーの磨耗状況、テーブルフィーダー底面ライナーの磨耗状況の検査作業を行っていたところ、急に6号機の連続式アンローダーのテーブルフィーダーが動き出したため、テーブルフィーダーと一体となって回転したテーブルフィーダーのステアー（リブ）と、主スクレーパーに挟まれた。</p>	11001	300 ～
2012	6	2 ～ 3	<p>コークス炉上で、原料コークスを石炭槽からコークス炉の炭化室へ運搬、仕込みをする「装炭車」のオペレーターをしていた被災者は、装炭車の最上階の床上に倒れているところを同僚により発見された。救急病院搬送したが、右半身を何かに挟まれており、搬送先病院で死亡した。なお、発見時、装炭</p>	11001	300 ～

			車は自動運転モードとなっていた。		
2013	11	3 ～ 4	被災者は、夜間に工場内の機械の監視業務を行っていた。被災者は一人で1階で作業していたが、製品が詰まった為機械を停止した上で解消しようと脚立に上がり作業中、エアーで上下「く」の字に駆動するアームが製品の重みで下向きで停止していたが、被災者が製品を動かした為軽くなり残存するエアーでアームが上に動き、製品が被災者側にきて製品と機械のパイプに胸を挟まれた。	10402	30～ 49
2013	3	9 ～ 10	被災者は、同僚6名と共に杉の間伐作業に従事していた。被災者の担当は、林内作業車による玉切材の運搬作業であった。災害発生直前の作業は、過去9に集材できなかった点在する玉切材を回収運搬するものであった。作業に先立ち、同僚のグラップル運転者が玉切材のある場所に移動し、被災者が林内作業車を運転し後を追った。グラップル運転者が玉切材をつかみ上げ、被災者が運転していた林内作業車に近づいたところ、当該作業車脇に倒れている被災者を発見した。	60201	1～9
2013	1	12 ～ 13	清酒のビン詰め工場において、スイーパー（空ビン洗ビン機に供給するための自動搬送装置）が待機状態で停止していた際、近くでスイーパーの運転監視をしていた被災者が、高さ約2mのスイーパーに上がり、何らかの確認作業を行っていたところ、スイーパーが再起動したため、スイーパーと支柱との間に頸部を挟まれて死亡した。	10105	50～ 99
2013	3	15 ～ 16	被災者は、自動搬送機を用いて鉄製品の表面にどぶ付けめっきを施す工程において、走行してきた自動搬送機と柱の間にはさまれた。尚、被災者は、光線式安全装置が設けられていない箇所から自動搬送機の走行範囲内に立ち入り、手作業により試作品のどぶ付けめっきを行っていた。	11204	10～ 29
2014	12	16 ～ 17	コンクリート製台付管成型機での作業終了後、成型機上部にあるコンクリートを投入する装置のホッパー内側に付着したコンクリートを除去していたところ、装置にコンクリートを供給するホッパー（中継ホッパー）が移動してきたことに気づかず、中継ホッパーと装置のホッパーとの間に挟まれた。	10901	30～ 49
		15	運搬機械でなめこ瓶の入ったコンテナをコンベアに移し替える作業中、機械		

2014	12	～	16	がトラブルで停止し、機械の電源を切らずに復旧作業を行っていたところ、機械が稼働し、アームとコンベアの間に首がはさまれた。	10109	10～ 29
2014	9	～	10	9 加工材料の表面処理設備と、投入機との間に挟まれている被災者が発見された。	11502	50～ 99
2014	6	～	18	17 木造加工ラインにて、木材を次のラインへ投入する動力運搬設備に故障が発生し、投入機の内部に入り、処理をしていたところ、押込機（プッシャー）とリフターのロールの間に胸部をはさまれた。	10409	10～ 29
2014	3	～	11	10 伐木した材をフォワーダを使用し集材中、フォワーダのグラップルを運転し、材を下ろしていたところ、運転席と材の間に挟まれ、死亡した。	60209	30～ 49
2014	1	～	10	9 サトウキビ畑で収穫作業をしていた被災者は、バックしてきたハーベスターに轢かれた。	60101	1～9
2015	5	～	11	10 ごみ収集作業中の労働者が、何らかの原因で突然バックしたパッカー車と建物支柱の間に挟まれて死亡した。事故発生時、運転手は車外におりパッカー車の運転席は無人であった。	150103	10～ 29
2015	4	～	9	8 共同企業体から依頼された煤煙濃度測定業務を行うため、測定場所に向けてアスファルトプラント内を移動中、稼働していたトロリとサージビンフレイムとの間に頭部を挟まれたもの。	150109	30～ 49
2015	3	～	9	8 生コン搬送用ホッパー下部の扉を開けてホッパー内部の清掃中、扉が閉まり、清掃作業を行っていた被災者の頸部が扉に挟まれたもの。	10901	10～ 29
2015	3	～	12	11 工場の解体工事現場において、被災者は運搬車（クローラー式、歩きながら操縦するタイプ）に、廃材を積み込んだ後、地下の出入口へ前進していたが、何らかの要因で運搬機を後退させたところ、建物の梁（高さ1.1メートル）と運搬車の操作パネル部（高さ0.93メートル）との間に頭部を挟	30209	10～ 29

			まれたもの。		
2015	11	15 ～ 16	工場内で、テーブル用の天板部材を製造する工程のうち、板材（24枚／組）を解体機（板材をテーブルリフターへ搬送する（載せる）為の機械）工程にて、解体機の爪部に載せられた板材が、テーブルリフターに搬送された際に1枚の板が解体機内に落下した為、被災者は解体機を停止させずに解体機内に立ち入り板材を拾おうとしたところ、稼働してきた解体機の爪部の根元と解体機本体の水平材との間に頭部を挟まれた（但し目撃者無）	10501	30～ 49
2016	12	13 ～ 14	収集車（パッカー車）から古紙（ダンボール）が搬出されるのを監視していた被災者は、ボデー（荷台部）から古紙が搬出されたあと、後方ホッパー部に近づき、ホッパー部回転板に頸部から上がはさまれた。	80109	1～9
2016	12	8 ～ 9	ごみ収集業務に出発するため、被災者は自身が運転するごみ収集車の暖気運転を行おうとごみ収集車の運転席ドアを開け、運転席に座らず外からエンジンをかけたところ、ごみ収集車が前方に動き出した。ごみ収集車は右側にハンドルを切るような形で前進し、当該ごみ収集車の右側に駐車していた別のごみ収集車に接触し、2台の間にいた被災者は、2台の車両に挟まれ被災した。	150102	100 ～ 299
2016	11	16 ～ 17	被災者は、堆肥散布機を運転して梨園の堆肥散布作業に従事していた。18時頃、同僚が梨の木の枝と堆肥散布機との間にはさまれている被災者を発見した。	60101	10～ 29
2016	11	9 ～ 10	冷却床取出工程において、H形鋼（製品）を次工程に搬送する装置のストッパーが下がらないため、運転停止後、保全担当の被災者が、点検歩道下の狭隘な場所にある電磁弁の補修を行った。被災者は、補修後、狭隘な場所から退避することなく、当該装置の運転再開の合図を操作者あて無線で行ったため、被災者の左側にあった取出台車駆動ワイヤロープの巻取用ドラムが回転したとき、作業服が巻き込まれて被災した。	11001	300 ～ 499
		9	9時40分頃、落鉱を下ろす鉱舎に移動し、バキューム車の助手席側の操作盤で、後方のハッチを開け、タンクを上げてタンク内の落鉱を下ろした。後方ハッチの箇所にはいた被災者が両手で○を示したので、操作者はタンクを元		100

2016	8	～ 10	に戻し、後方のハッチを閉め、ロックを掛けようと操作した際、ロックが掛からなかったため、後方ハッチの箇所に行ったところ、タンクと後方ハッチとの間に頭部がはさまれている被災者を発見した。	11101	～ 299
2017	10	～ 23	製造機械の不具合により自動運転が停止したため、手動操作に切り替えた後、当該機械駆動部を覗き込んで復旧作業を行っていたところ、突然機械が動き出し、当該機械に上半身を挟まれた。	11305	～ 299
2017	9	6 ～ 7	自動めっき装置ラインにおいて、製品を各めっき層に投入する搬送機械が下降してきたところに体が挟まれた。	11204	30～ 49
2017	8	12 ～ 13	被災者は機械のメンテナンス会社の労働者。災害が発生したのは、空き瓶を乗せたパレットを製造レーンまで持ち上げるリフター機械。被災者はリフターの下部に潜り込み、油圧シリンダーのエア抜き作業を行っていたところ、シリンダーのプラグが外れ油が漏れ出し、リフターが最下部まで落下したことで上から全身を挟まれた。発見時は心肺停止状態であったが病院で手術後に死亡した。	11702	1～9
2017	2	8 ～ 9	コンクリート製品製造での脱型作業時に、型枠下方にあるボルトをインパクトレンチを使用して取り外す作業をしゃがんで行っているところに、側方にある別の型枠が誤作動により移動し、型枠の足場と型枠の足場に胸を挟まれた。	10901	10～ 29
2017	1	8 ～ 9	建造中の船舶甲板に移動するために外部昇降路に設置された屋外エスカレーターに被災者が乗ったところ、プラスチック製の踏板（ステップ）が壊れ、エスカレーター内部に転落。被災者の体が床下フレームと後続の踏板に挟まれた。被災者が挟まれた状態でエスカレーターが動き続けていたところを発見され、3時間後に救出されたが病院で死亡が確認された。	11501	1000 ～ 9999
2018	10	10 ～ 11	ゴミ処理施設内のプラットホームで、一般家庭から収集した可燃ゴミの排出作業中、ゴミ収集車後部の扉（テールゲート）に頭部を挟まれたもの。	170101	1～9

2018	10	10 ～ 11	墓地内で基礎工事を行っていた際、ダンプカーから現場に砕石を移動させるため、現場に置いていたハンドガイド式運搬車（最大積載荷重650kg）を操作してバックさせたところ、背後にあったフェンスと運搬車操作用の手すりに腹部を挟まれたもの。	30199	1～9
2018	2	14 ～ 15	射出成形機の金型交換の為、金型交換用自動搬送機で金型を移動させていたところ、金型と射出成形機の架台フレームとの間に挟まれ被災した。	11502	100 ～ 299
2019	11	14 ～ 16	ゴミ収集車で資源ゴミ（新聞や段ボール等）を運搬する作業中、ゴミ収集車のホッパーの奥に残ったゴミの破片を取り除こうとしていた。作業員がホッパー内に頭を入れたまま、同僚に回転板を上げるように指示したところ、同僚が誤って回転板を下げるボタンを押したため、首が回転板に挟まれ死亡した。	150102	10～ 29
2019	11	10 ～ 12	漁船（8.5t）左舷前方にて漁網を取り込む機械（2つのドラムが逆方向に回転し、ドラム間に網等を挟み、巻き上げるもの）を操作し、ロープを巻き上げていた被災者がドラムとドラムの間に左脇から腰部を挟まれ死亡したもの。挟まれた際、ドラムの回転方向は巻き上げとは逆の方向であった。	70201	1～9
2019	8	8 ～ 10	スクラップ材収集作業中、ハンドガイド式不整地運搬車を方向転換しようとして後進していたところ、背後の壁と運搬車の手すりに胸腹部を挟まれたもの。	30309	10～ 29
2019	6	2 ～ 4	被災者が5階のラックエリアにて固定されたラックの2段目の在庫の確認をしていたところ、他の労働者が移動式の電動ラックを被災者側へ動かしたため、固定式のラックと移動した電動ラックの間に挟まれたもの。後日収容先の病院で死亡した。	80401	10～ 29
2019	4	10 ～ 12	自動プレスの金型交換において、被災者は、全自動金型交換機を起動した後、金型交換機とプレス本体の間に立ち入り、何らかの作業を行っていたところ、金型交換機とプレス本体をかけ渡すブリッジが降下し、ブリッジとプレス本体の間に首を挟まれ、圧迫により窒息死した。	11203	50～ 99
			工場内において、木工加工用機械にて合板の仕上作業を行っていたところ、		

2019	4	12 ～ 14	被災者がテーブルリフト（油圧式）の上部板と渡し板との間に胸部を挟まれ意識がなくなっているのを、通りかかった別の労働者が発見した。すぐに病院へ救急搬送されたが、当日深夜に死亡したものの。	10402	1～9
2019	2	10 ～ 12	製品を運搬する油圧式リフターフレームと鉄製フレームの間に挟まれ、うつぶせの状態です倒れこんでいた被災者が発見されたもの。同リフターの油圧シリンダーについて災害発生前日に交換工事を実施しており、その稼働状況を確認している中で被災したものと推定される。被災者は胸部及び右上腕部を挟み込まれており、発見時点で心肺停止、自発呼吸再開後も意識不明の状態が続き、後日死亡した。	11502	100 ～ 299
2020	7	20 ～ 22	のこ屑を溜めるサイロの中に入り、のこ屑の払い出し作業をしていた被災者が、何らかの理由でサイロ内下部で稼働しているスクリーコンベアに右腕を巻き込まれ、同僚に発見された。	10401	50～ 99
2020	4	20 ～ 22	被災者は、製材工場の合板製造ラインにおいて、厚さ12mmの合板を規定のサイズ（921mm×1818mm）にカットする工程の作業に従事していた。途中、製材が流れてこなくなったことを不審に思った同僚が被災者を検索したところ、オートフィーダーと呼ばれる木材搬送装置（合板をベルトコンベヤーに全自動で供給する装置）の可動部と本体フレームの間に上半身を挟まれた状態で発見されたもの。	10402	100 ～ 299
2020	3	14 ～ 16	被災者は一人で2階へ上るエスカレーターの異音対応をし、2階降り口付近で、自動運転にして足踏みで異音確認中、踏段（水平の踏面と縦の蹴込み板が一体化の部品でステップとも呼ぶ）2枚を踏段チェーンから外した開口部が後方から来て、当該開口部（横1m×縦80cm（2枚分）、深さ1m）に落ち、降り口まで運ばれ、くし板（くし歯（踏面の溝に対応）が下面に並ぶ固定板）と後続の踏段に挟まれ、腹部が切断された。	170209	1～9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207\\_01.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html)



